

# 事務事業チェックシート

事務事業No 592 事業名 各種競技団体との連携事業（スポーツ交流大会、ジュニアサッカー教室など）

[事業基本情報]

分野別目標	5	子どもが輝き、文化が薫る教育のまち
政策	4	文化・スポーツの振興
施策	3	生涯スポーツの振興
基本方針	2	スポーツ人口の拡大と競技力の向上

事業区分(1)	事業経費	○	管理経費	
	その他			
事業区分(2)	自治事務	○	法定受託事務	
	その他			
会計・予算区分	会計		一般会計	
	款		教育費	
	項		保健体育費	
	目		体育振興費	
	大事業		体育振興事業	
事項		各種競技団体との連携事業		

事業種別	継続	主な事務事業	
事業期間		～	永年
事業実施の根拠法令			
関連個別計画	和歌山市スポーツ振興計画		
担当課・担当課長 (Tel)	スポーツ振興課	高松 通博	
関連課			

「3つの約束・44の約束」との関連性

3つの約束	産業を元気に	まちを元気に	人を元気に	非該当
			○	
44の約束				○

## 1 事業概要及び実施内容

事業概要	事業目的（「誰・何」をどういう状態にする」ための事業か）	事業内容				
	和歌山市体育協会や、和歌山市スポーツ少年団などの様々な競技団体と連携を密にすることで、市民がスポーツに接する機会を与え、スポーツ人口の増加を図ることを目的とします。	スポーツの振興及びスポーツ人口の増加を目指し、和歌山市体育協会やスポーツ少年団などの様々な競技団体が実施するサッカー教室、交流大会、卓球大会等に補助金等を支出しています。				
実施内容		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
		生涯スポーツ交流大会の開催 ジュニアサッカー教室の実施 市町村対抗ジュニア駅伝競走大会への派遣 障害者卓球大会の開催	生涯スポーツ交流大会の開催 ジュニアサッカー教室の実施 市町村対抗ジュニア駅伝競走大会への派遣 障害者卓球大会の開催	生涯スポーツ交流大会の開催 ジュニアサッカー教室の実施 市町村対抗ジュニア駅伝競走大会への派遣 障害者卓球大会の開催	生涯スポーツ交流大会の開催 ジュニアサッカー教室の実施 市町村対抗ジュニア駅伝競走大会への派遣 障害者卓球大会の開催	生涯スポーツ交流大会の開催 ジュニアサッカー教室の実施 市町村対抗ジュニア駅伝競走大会への派遣 障害者卓球大会の開催

## 2 事業コスト

事業費等 千円		平成25年度		平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度		
		当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	計画	決算	計画	決算	
	事業費	2,747	2,741	2,801	2,734	2,898		2,898		2,898		
	伸び率 (%)	-	-	2.0%		3.5%		0.0%		0.0%		
	人件費	常勤職員	3,693	2,940	2,940	2,993	2,993		2,993		2,993	
		非常勤職員										
		小計	3,693	2,940	2,940	2,993	2,993		2,993		2,993	
	国庫支出金											
	県支出金											
	市債											
	その他											
	一般財源(税等)	2,747	2,741	2,801	2,734	2,898		2,898		2,898		
	所要人数	常勤職員	0.50	0.39	0.39	0.40	0.40		0.4		0.4	
非常勤職員												
主な予算内訳												

## 3 目標及び実績

活動指標	指標名及び達成状況				平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
	教室・各種大会実施件数				年度目標値	19	19	19	19
					実績値	19			
	単位	件	全体目標値	全体目標達成度	年度別達成度	100.0%	100.0%		
					年度目標値				
					実績値				
成果指標	教室・大会参加者数				年度目標値	3,200	3,200	3,200	3,200
					実績値	2,577	1,747		
	単位	人	全体目標値	全体目標達成度	年度別達成度	80.0%	54.6%		
					年度目標値				
					実績値				
	単位		全体目標値	全体目標達成度	年度別達成度				

4 事業の評価

評価基準					
[妥当性]事業のニーズはあるか	○	増加している		横ばい	減少している
[妥当性]事業手段は妥当か	○	現行の手段でよい		一部見直しが必要	見直しが必要
[妥当性]官民の役割は妥当か		市が行うべき	○	他の主体との協働も可能	市が行う必要性は薄れている
[妥当性]緊急的に取り組む必要はあるか		急いで取り組む		中長期的に取り組む	○ 緊急性は薄い
[有効性]更に効果が期待できるか		できる	○	あまりできない	できない
[有効性]成果目標はどの程度達成しているか	○	達成している(90%以上)		おおむね達成(70~90%未満)	達成していない(70%未満)
[有効性]上位施策への貢献度		重要かつ高い貢献度がある	○	一定の貢献度がある	貢献度は低い
[効率性]事業費を抑制できるか		できない	○	制約はあるが可能性はある	できる
[効率性]受益者負担の見直し	○	適正		負担は求められない	見直しが必要

5 今後の方向性 (担当課評価)

事業内容の方向性	充実				
	現状維持		○		
	縮小				
	廃止				
		ゼロ	縮小	現状維持	拡大
コスト投入の方向性					

担当課評価の根拠	<p>様々な競技団体と連携を図り、市民のための生涯スポーツ交流大会の開催や、障害者と健常者が共に参加して行う障害者卓球大会など、市民が気軽にスポーツに接する機会を与え、人と人との繋がりや交流を大切にすることで、スポーツ振興や推進に寄与しています。</p>
「見直し」 「改善」案	<p>今後も、競技団体との連携強化を図り、各種スポーツ大会を実施していく中で、コスト削減に向けて検討してまいります。</p>